

# 学区福祉委員会の 参考書

作成：岡崎市社会福祉協議会



自分たちが地域で  
できることって  
なんだろう？

地域の支え合いって  
なにをすれば  
いいんだろう？

地域福祉は、「誰もが安心できる暮らし」をすることです。  
 わたしたちには何が出来るか、自分たちのまちを自分たちで守るために、  
 今必要な「助け合いの心」をもう一度考えてみませんか？

## 自分たちのまちのこれから

わたしたちの生活は、時代により変化しています。その社会的な背景の変化に伴い、日本の年少人口は減り、老年人口は年々増えています。わたしたちのまちは少子高齢化が進んでいます。

### 〈世帯構成の変化〉

従来の三世帯世帯(祖父母・夫婦・子ども)が減少し、夫婦のみ、夫婦とその未婚の子ども、ひとり親といった核家族が増えています。また、単独世帯(一人暮らし)も増え、孤立死も全国的に起きています。

### 〈働き方の変化〉

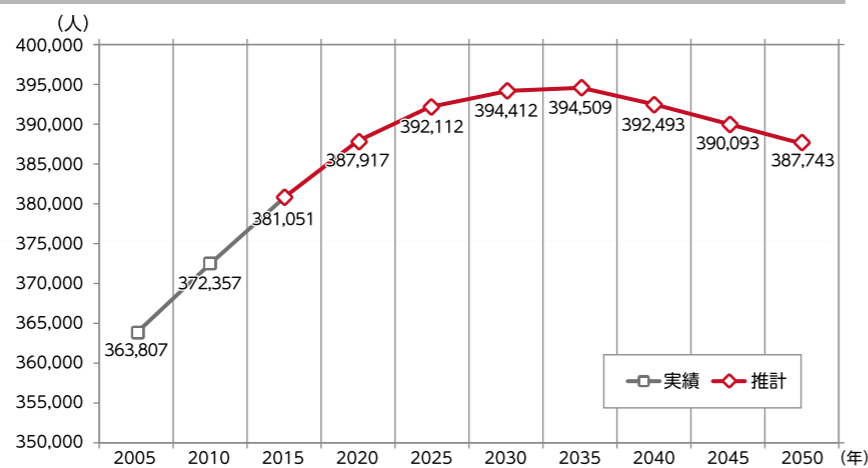
女性の社会進出による共働き世帯数が増加し、男性も女性も活躍する社会となっています。しかし、同時に子育てにかけける時間の減少や少子化に拍車をかけていることも事実です。

### 〈生涯未婚率の変化〉

近年、生涯未婚率が上昇傾向にあります。今後人口減少に伴い、労働人口の減少が懸念されています。

〈人口推計結果〉

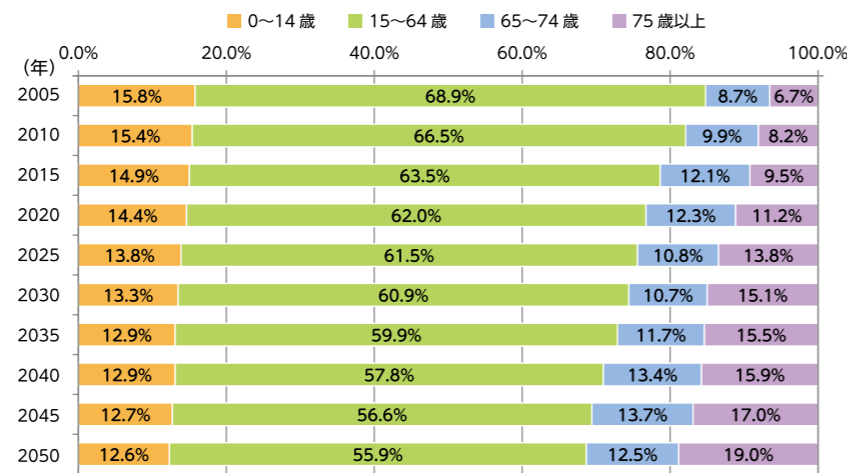
岡崎市の人口推計は、2035年まで増加傾向にあり、その後減少する予測です。



【参考：岡崎市の人口推計 2019年3月発表】

〈年齢4階級別による2050年までの人口構成の見通し(総人口に占める割合)〉

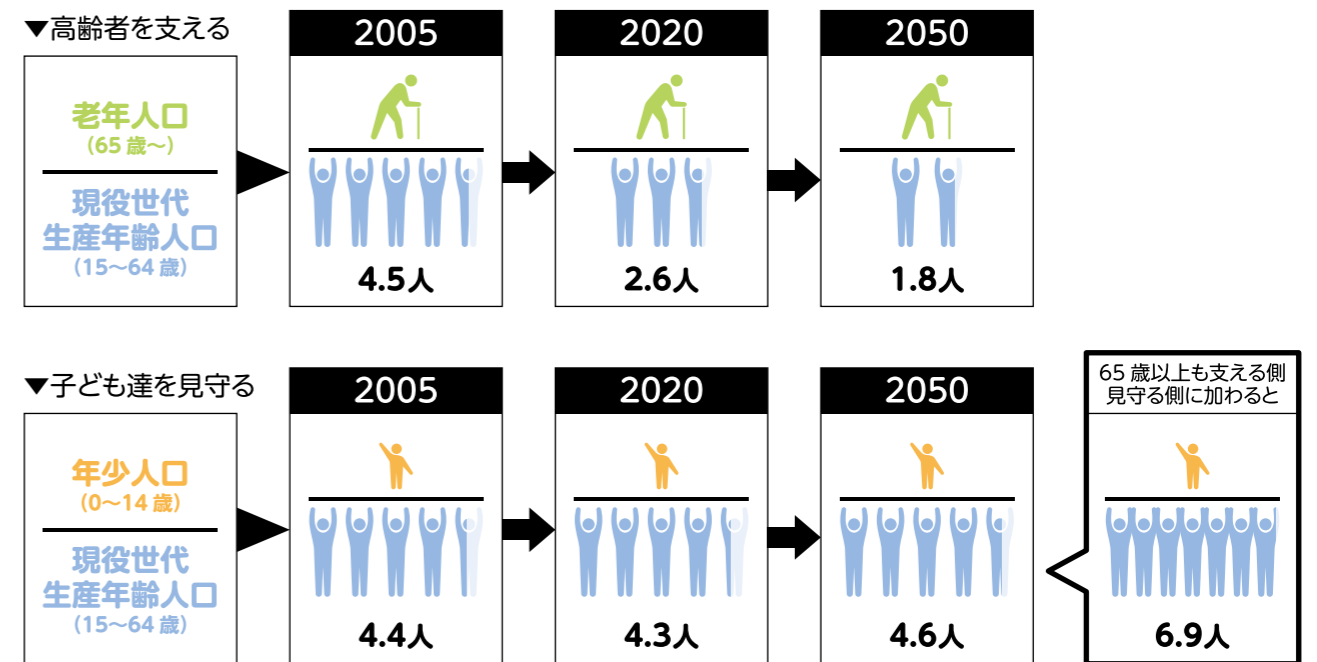
- ・「0～14歳」と「15～64歳」は低下傾向にあります。
- ・「65～74歳」は2020年から低下傾向にあります。2035年以降再び緩やかに上昇する見通しです。
- ・「75歳以上」は上昇傾向にあります。



【参考：岡崎市の人口推計 2019年3月発表】

## 自分たちのまちにできること

これから少子高齢化が進み、高齢者を支える世代が減少していきます。誰もが安心して暮らしていけるように、わたしたちには何が出来るでしょうか。



65歳以上を支える人数は、少子高齢化に伴い、年々肩上げ方式から肩車方式に変化しています。一方、0～14歳を支える人数は2005年と2050年ではあまり変わりません。しかし、視点を変え、65歳以上も支える側となれば、地域の子どもを見守る大人の目が増えていくことになります。

人口減少、支える側(現役世代)の減少、働き方の変化など様々な社会問題を背景に、今、地域住民が主体となって、地域社会全体での支え合いの活動が求められています。

地域を支える地縁型組織として、**学区福祉委員会**があります。  
 自分たちのまちのこれからのために、今から始められることを少しずつ始めましょう。

# 学区福祉委員会とは

小学校区という身近な生活の場(小地域)において、日常生活の中で起こりうる困りごとや課題に早期に気づき、必要な社会資源(地域における施設、公的機関、サービス、協力者など)につなげ、「誰もが安心できる地域づくり」を目指します。地域住民が主体となって、関係機関と協力しながら、小地域福祉活動に取り組む団体です。また、岡崎市地域福祉計画においても注目されており、地域福祉を推進する組織として期待されています。

## 組織としての目標

福祉委員のみなさんで心がけ、活動に取り組みましょう。

## 誰もが安心できる地域づくり

## 組織としての心構え

福祉委員のみなさんはボランティア精神にのっとった地縁型の組織です。活動を始める前にボランティアについておさらいしませんか？

## ボランティアの心 3つの柱

ボランティア活動では、「自発性・自主性」「社会性」「非営利性」の3つの柱がポイントです。

### 自発性・自主性

活動を強制・強要されるのではなく、自分自身が主体的に考え、自らの意思で活動に参加しましょう。

### 社会性

特定の個人や、団体のためではなく、広く社会のために活動しましょう。

### 非営利性

団体や個人の営利を目的とする活動ではありません。

## あゆみ

岡崎市において、孤立死のない地域づくりを目指し、平成10年から各小学校区単位に学区福祉委員会が誕生していききました。

平成23年までには、全ての小学校区(1地区中学校区)で設立され、市内46学区(地区)福祉委員会が、現在も継続的に地域福祉活動に取り組んでいます。

また平成21年12月には、学区福祉委員会同士の横のつながりを築くため、岡崎市学区福祉委員会連絡協議会が設立されました。



【学区福祉委員会連絡協議会総会】

## 目指す構成メンバー

学区福祉委員会では地域のつながりを大事にしています。地域のさまざまな組織で構成することにより、地域の問題や悩みを情報交換できます。

お互いの組織とのつながりにより、助け合いがしやすく、コーディネーション機能(P.5)のより効果的な活用を期待できます。

## 学区福祉委員会

民生委員児童委員協議会

老人クラブ

小学校

総代会

保育園父母の会

遺族会

駐在官

保育園

小学校PTA

健康推進員

子ども会

学区社会教育委員会

保護司

消防団

ボランティア活動者

交通指導員

身体障害者福祉会支部



【参考：下山学区福祉委員会】

## 組織運営

学区福祉委員会組織としての目標を達成するために、**Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Action(改善)**を心がけましょう。組織運営や活動をしていると、**Check(評価)・Action(改善)**は不足しがちになり、**Plan(計画)⇔Do(実行)**を行ったり来たりすることはありませんか？

岡崎市社会福祉協議会では、このサイクルを意識した**福祉座談会(通称:ミソ端会議)**を開催しています。学区福祉委員会をはじめとした学区内の福祉活動を振り返り、効果や不足している点、新たな課題を話し合い、次の取り組みにつなげていくことができるのが、この**ミソ端会議**です。



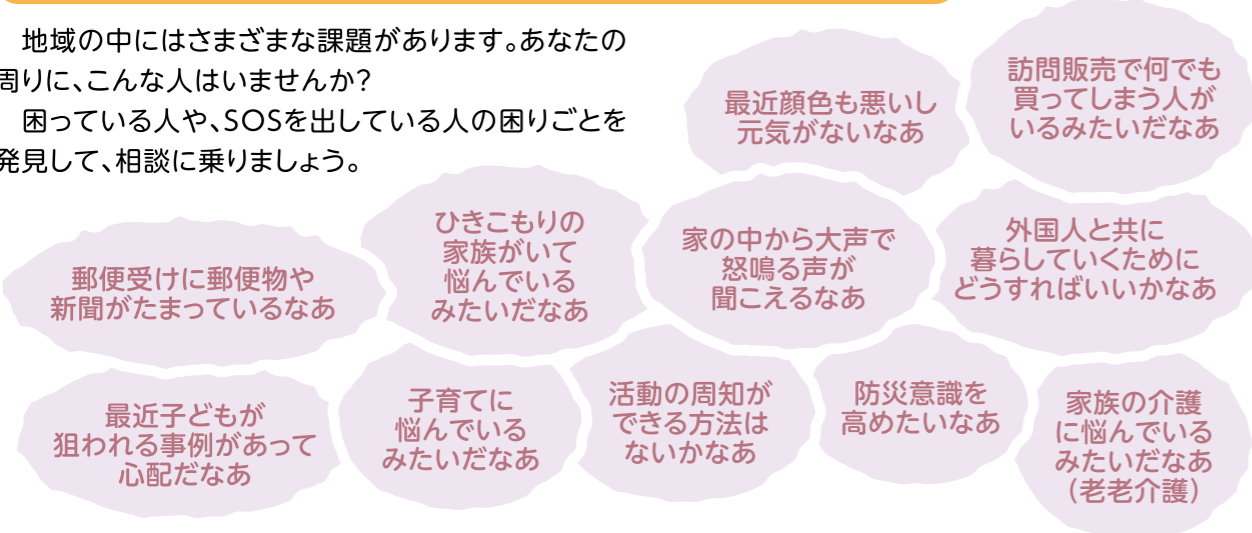
【ミソ端会議】

活動を振り返る機会を持ち、次の活動につなげていくことが、組織運営のミソになります！

# 福祉委員の役割

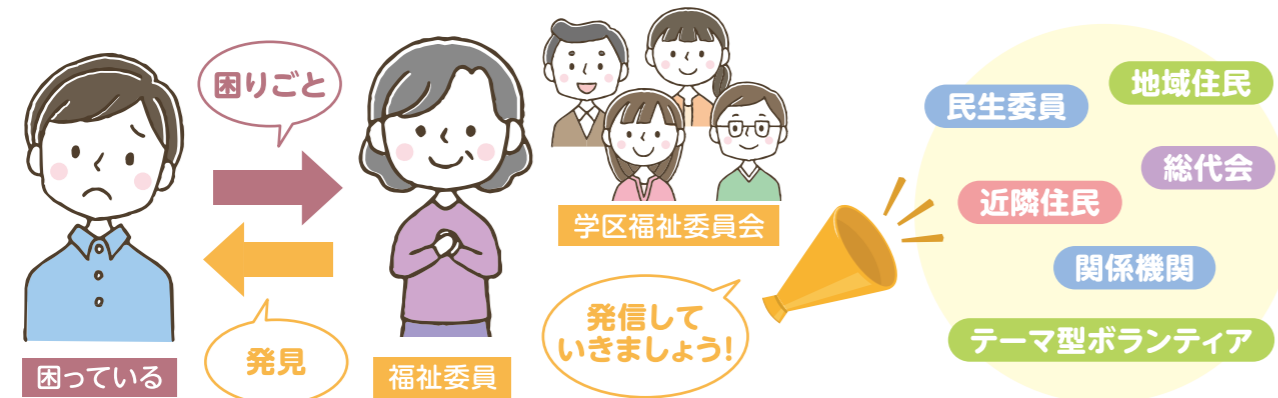
## 地域住民の困りごとや地域の課題に早期に気づく

地域の中にはさまざまな課題があります。あなたの周りに、こんな人はいませんか？  
困っている人や、SOSを出している人の困りごとを発見して、相談に乗りましょう。



## 必要な支援につなげる(コーディネーション)

地域の困りごとを発見し、福祉委員会で解決できないときには、地域につなげてみましょう(コーディネーション機能)。地域に声をかけることで一緒に活動する仲間が増えることもあります。



# 活動内容

ここに紹介する活動は一例です。地域のニーズや地域性に合わせて、活動を進めましょう。



ひとり暮らし高齢者などの見守り訪問 (災害時避難行動要支援者名簿対象者含む)

## 災害時避難行動要支援者名簿の活用例

- 防災・防犯協会長(総代)  
災害時の避難誘導や救出・救護
- 民生委員・児童委員  
新規登録者の登録支援
- 福祉委員会  
平常時の見守り活動



サロンや茶話会などのふれあいの場づくり



広報紙の発行



学区福祉委員会フェイスブックの作成



世代間交流



地域住民、福祉委員を対象とした講座や研修



防災についての講座や訓練



児童を対象とした見守り安全パトロール

# 活動のポイント7箇条

- 1 できることから始めよう!**  
日常生活の中で、無理のない範囲で活動しましょう。継続することが大切です。
- 2 相手の気持ちになろう!**  
地域住民の困りごとや地域の課題を発見した時、まずは相手の立場に立って考えてみましょう。

- 3 聴き上手になろう!**  
相手の話を聴いて寄り添ってみましょう。聴いてくれる人がいるだけで、安心できるものです。
- 4 日頃からのつながりを大切にしよう!**  
隣近所の日頃からのつながりが、SOSの早期発見につながるのと同時に、SOSを発信しやすい地域になります。

- 5 1人で抱え込まないで!**  
日常生活の中で気づいた変化、発見した課題などは、一人で解決しようと思わなくて大丈夫です。一緒に活動する福祉委員、または総代、民生委員など同じ地域で生活している仲間、そして社会福祉協議会、行政などの関係機関に相談して、地域みんなで問題解決に努めましょう。
- 6 秘密は守ろう!**  
福祉委員会活動の中で知り得た個人情報は、必要以上に口外しないようにしましょう。地域住民からの個人情報は、信頼関係の上に成り立っていることを忘れず、お互いのプライバシーの尊重に努めましょう。
- 7 笑顔で楽しもう!**  
何事も、楽しむことが大切です。笑顔で活動している人がいると、地域いっぱいに笑顔の輪が広がります。たくさんの仲間と一緒に、地域づくりを楽しみましょう。

# 保険のご案内


安心して活動を行うための保険の紹介です。  
学区福祉委員会の皆さんを対象としています。

	市民活動総合補償保険	ボランティア活動保険	ボランティア行事用保険
特徴	町内会・子ども会・市民活動団体等の公益的な活動を安心して行えるよう岡崎市が負担をしている保険	安心してボランティア活動ができるようボランティア活動者本人に付ける保険(任意)	福祉委員会活動の行事そのものにかかる保険(任意)
補償期間	通年	4月1日(加入の翌日)～翌年3月31日	
費用	無料(自動加入)	1人あたり 250円～	1人あたり 30円～
お問い合わせ先	<b>岡崎市 市民安全部 市民協働推進課</b> 電話 23-6491 FAX 23-6667	<b>岡崎市社会福祉協議会 ボランティアセンター</b> 電話 47-7955 FAX 47-7956	

※2022年4月の規定です。

## 学区福祉委員会と社会福祉協議会の関係性

社会福祉協議会が学区福祉委員会活動のお手伝いをさせていただきます!

人的支援	物品支援	資金支援
<b>立ち上げ支援</b> サロン活動や、新しい事業に関する立ち上げのお手伝いをを行います。	<b>地域福祉活動備品 貸出事業</b> レクリエーション用品やパソコン、プロジェクターの貸し出しをしています。	<b>補助金制度</b> 地域の皆様からご協力いただいた共同募金(各世帯にお願いしている募金)の一部を学区福祉委員会活動費に配分しています。
<b>ご相談等</b> 活動に関することや、地域の会議出席依頼等、福祉委員会活動全般のご相談に対応させていただきます。	<b>ボランティア資材 貸出事業</b> 高齢者疑似体験セットや車いす等の貸し出しをしています。	
<b>企業との橋渡し</b> 企業の社会貢献活動と地域をつなげます。		

## 学区福祉委員会に関する問い合わせ先

岡崎市社会福祉協議会 **総務課 事業係**

住所 岡崎市美合町五本松68番地12 社会福祉センター 1階

電話 47-7955 FAX 47-7956

メール vc@okazaki-shakyo.jp

岡崎市社会福祉協議会 **額田支所**

住所 岡崎市榎山町山ノ神10番地1

電話 82-2268 FAX 82-3706

メール nukata@okazaki-shakyo.jp